

## 零戦 4

史上最高の戦闘機「零戦」に取りつかれた男が、世界中（といっても、太平洋の小さな島など）を巡って、その破片や部品を集めて零戦の復元を志した。アメリカ人だが、本来なら日本人がおこなうべきものだろう。現在、燃料をいれたら空を飛べる零戦が、7機ある。そのうちの1機を日本人が2億数千万円で購入する話があったのだが、行方不明になってしまって、話がなくなってしまった。だから日本には空を飛ぶことができる零戦が1機もない。

昨年だったか、零戦の飛ぶ姿を日本でデモンストレーションすることがあり、零戦の会会長やヒマラヤを掃除しまくっている男らがTVにでて、しきりに「涙がでるほど感動しました」という。美しい、というのは最初に零戦が飛んだ時の堀越二郎さんの感想だが、同じ言葉をくりかえすが、感動の押し売りはいらない。具体的に、ではどうするのか？ 持ち主が気まぐれで零戦をとばすのを待つのか？ 零戦の破片を蒐集するだけで莫大な費用がかかっている。日本にも飛行可能な零戦を保持しようとは思わないのだろうか。

もっとも可能性があるのが、三菱工業だが、はなから相手にしてくれない。今の商売に差し支えがあったり、中国などがイチャモンをつけてくるのがいやなのかもしれない。

もう零戦に乗って活躍していた搭乗員が次第にいなくなっている。彼らや彼らの遺族に買わせるには、額が大きすぎる。それなら、「零戦が飛んだ」と興奮している輩が、こまめに、三菱系が望ましいが、大会社を訪ねて賛助金を募り、靖国神社とか愛知県のどこかに保管しておいて、何かの記念日にでも飛ばせる方が納得できる。

念のため、第二次大戦で最強戦闘機はP51 Mustangといわれている。ところが、日本陸軍の四式戦闘機に高オクタン価のガソリンをいれると、Mustangよりも高い性能を示したという。